

平成29年度緑の学園・農業クラブリーダー講習会 実施要領

1 目 的

農業関係高等学校等の生徒が、目的意識や幅広い視野を持って社会生活に参画していくために、農林業をテーマとした講習を通して、産業、地域社会、自然環境の中で、農林業の役割を見つめ直し、理解を深めるとともに、集団活動の中で指導的な役割を担うことのできる資質を養成する。

2 スローガン

Agriculture Message ”自然 夢 感動” ネイチャー・スクール

3 主 催

静岡県立農林大学校、静岡県学校農業クラブ連盟（以下「農ク」という。）

4 参 加 者

高校生：静岡県学校農業クラブ連盟クラブ員及び農林業に興味・関心のある県内高校生 80名程度
 大学校生：本校養成部学生10名程度

5 研修期間

平成29年7月26日（水）～7月28日（金） 2泊3日

6 開催会場

静岡県立朝霧野外活動センター（〒481-0101 富士宮市根原1 Tel.0544-52-0321）

7 研修内容

- (1) 農林業研修 現地見学、講演会、分科会、発表会
 テーマ： 「農業イノベーション」
- (2) 仲間づくり研修 ウォークラリー
- (3) 農業クラブの紹介 各校の農業クラブ活動等
- (4) 農林大学校の紹介 学習内容、寮生活、進路状況等

8 指 導 者

県下農業関係高校の農業クラブ顧問教師，農林大学校職員

9 開・閉講式

(1) 開講式 (7/26) 次 第

- ・開式のことば 静岡県立静岡農業高等学校（農ク副会長） 芝塚 紗羅
 - ・主催者あいさつ 静岡県立農林大学校 校長 伊藤 省三
 - ・生徒代表あいさつ 静岡県立田方農業高等学校（農ク会長） 佐藤 寛太
 - ・閉式のことば 静岡県立磐田農業高等学校（農ク副会長） 兼沢 美月
- ※ 開講式終了後、センター職員による施設利用のオリエンテーション

(2) 閉講式 (7/28) 次 第

- ・開式のことば 静岡県立藤枝北高等学校（農ク理事） 竹島 祐香
- ・主催者あいさつ 静岡県立田方農業高等学校（農ク代表） 大塚 忠雄
- ・生徒代表お礼 静岡県立田方農業高等学校（農ク会長） 佐藤 寛太
- ・終了に当たって 静岡県立朝霧野外活動センター職員
- ・閉式のことば 静岡県立下田高等学校南伊豆分校（農ク理事） 平山 シュリ

平成 29 年度 緑の学園・農業クラブリーダー講習会 報告書

農林業研修.....	2
テーマ「農業イノベーション」.....	2
視察先① 富士ミルクランド ミルクランド株式会社.....	3
視察先② 株式会社朝霧高原フルーツ村.....	5
講演会 富士市産業支援センター f-Biz 小出宗昭氏.....	6
分科会・発表会.....	7
農業クラブ紹介・農林大学校紹介.....	64
仲間作り研修.....	67
ドッジボール.....	67
ウォークラリー.....	68
参加者アンケート.....	69

事業概要

主催： 静岡県立農林大学校、静岡県学校農業クラブ連盟

期間： 平成 29 年 7 月 26 日(水)～7 月 28 日(金)

会場： 静岡県立朝霧野外活動センター(富士宮市根原 221)

参加者：

学校名	参加高校生人数	指導・引率職員人数	農林大学校生人数	
下田高校南伊豆分校	3	1	-	
田方農業高等学校	9	3	-	
富岳館高等学校	5	1	-	
静岡農業高等学校	19	1	-	
藤枝北高等学校	5	1	-	
小笠高等学校	6	1	-	
遠江総合高等学校	4	1	-	
天竜高等学校	2	1	-	
磐田農業高等学校	10	1	-	
浜松大平台高等学校	5	1	-	
浜松湖北高等学校	8	1	-	
農林大学校	-	4	14	総計
合計	76	17	14	107 名

事務局(報告書編集・発行)

静岡県立農林大学校

〒438-8577 磐田市富丘 678-1 TEL 0538-36-1564

静岡県立田方農業高等学校

〒419-0124 静岡県田方郡函南町塚本 961 TEL 055-978-2265

農林業研修

テーマ「農業イノベーション」

1 目的

農ビジネスにおける先進経営の現地視察や講演を実施し、その後の分科会では、夢のある農業について、グループ討議を行い、創業(事業)計画を取りまとめ発表を行うことにより、将来の農業の担い手(リーダー)としての自覚を持たせる。

2 テーマ 農業を変える新たなアイデアを提案しよう～新発想で農業の問題解決～ キーワード「農業イノベーション」

3 現地視察(7月 26 日)

視察先① 富士ミルクランド ミルクランド株式会社

場所：富士宮市上井出 3690

視察先② 株式会社朝霧高原フルーツ村 (夏秋イチゴ生産)

講師：株式会社朝霧高原フルーツ村 代表取締役社長 片山 洋一

場所：富士宮市上井出 3690

4 講演会(7月 27 日)

演題：「農業イノベーション～問題解決のための新たなアイデア～」

講師：富士市産業支援センター f-Biz 小出 宗昭

(富士市永田北町 3-3 富士市立中央図書館分館 1 階)

5 分科会(7月 26・27 日)

各班でテーマとする農業上の課題とこれを解決するアイデアについて話し合い、企画書を作成する。

6 発表会(7月 28 日)

班ごとに、OHP でプランをプレゼンテーションする。

7 分科会会場 (各会場で適宜机を並べ替え、最後は元に戻す。)

視聴覚室(本館 2 階)	1、2、3、4、5班
オリエンテーション室(本館 1 階)	6、7、8、9班
ネイチャールーム(体育館棟)	10、11班

視察先① 富士ミルクランド

ミルクランド株式会社

所在地 富士宮市上井出 3690

事業内容 酪農体験、牛乳及び乳製品の生産・加工・販売

取扱商品 牛乳・ジェラート・チーズケーキ・ヨーグルト・チーズ・食べる牛乳等

受賞歴

平成13年【カマンベールチーズ】第三回オールジャパン・ナチュラルチーズコンテスト 特別審査委員賞・優秀賞のダブル受賞

平成15年【ストライプチーズ】第四回オールジャパン・ナチュラルチーズコンテスト優秀賞

平成16年【搾りたてバター】静岡ふるさと食品品評会 県知事賞（最高賞）

平成17年【ストライプチーズ】静岡ふるさと食品品評会 県議会議長賞

平成22年【酪農家さんが作った食べる牛乳】ふじのくに新商品セレクション金賞

平成23年【富士山ヨーグルト プレーン】ふじのくに新商品セレクション金賞
(2年連続受賞)

〈富士ミルクランドにて〉

富士ミルクランドは、1996年に富士開拓農業協同組合の資本で建てられた施設である。

富士ミルクランドがある朝霧高原は、戦時中戦車の乗組員を育てる学校があり戦車が走っていた。そのため、周りには何も無く戦後の復興のときに、他県からの移住者によって開拓された土地だ。

1946年に、緊急開拓事業の国営開拓地として自作農家創設事業が開始された。しかし富士山の火山灰の影響で、やせた土地で作物の栽培は向かない。そのため、1950年頃から新たに畜産農業への転換を図った。1954年に国からジャージー種250頭余りが導入され、そこから酪農が盛んになっていった。1965年後半にかけて大規模な装置の改良を行った。飼育基盤の整備と共に新しい施設の建設も進み、より生産性の高いホルスタイン種への移行と相まって、現在の酪農地域としての基盤が確立された。この時期から経営の拡大を志向する農家が増加した。1965年後半から1975年前半にかけて自給肥料の生産向上を図るために、国の事業を活用し自給肥料生産の合理化を図った1983年から1989年にかけて国の事業により草地や施設の整備、高性能の大型機械を導入し、酪農専業地域として発展していった。

富士ミルクランドは、敷地面積が4.3haあり牛の乳搾りが出来る酪農体験や、宿泊施設、富士ミルクランドで販売されているチーズやアイスクリームなどの乳製品を、製造する工房、レストラン、バーベキュー施設、ランドは、敷地面積が4.3haあり牛の乳搾りが出来る酪農体験や、宿泊施設、富士ミルクランドされているチーズやアイスクリームなどの乳製品を、製造する工房、レストラン、バーベキュー施設、ドックラン、農産品直売所と様々な施設があり富士ミルクランドで1日を過ごすことができる。

富士ミルクランドでは、経営のことについて学ぶことができた。

ミルクランドは、赤字が続いて、なかなか黒字にならなかった。そのため、赤字は1億円にもたしてしまっ。同時に富士開拓農業組合の資本で建てられた施設であるため、圧力をかけられて

しまう。しかし、ミルクランドは、そんな逆行の中でも乳搾り体験やソーセージ作り、アイスクリームなどの乳製品を販売していったことで、徐々に赤字から黒字へと変わっていった。今では、1億もあった赤字が、2000万近くまでに減少。まだすべての赤字を取り除くことができたわけではないが、確実に結果を出している。

このことは、今の農業に大切なことだと思う。農業は、IT産業などに比べ儲からない。そのため、経営していくのが困難である。それでもミルクランドのように努力していくことで、始めは結果が付いてこなくても、後から結果がついてくるようになる。努力を惜しまずやることが大切である。



〈感想・反省〉

今回緑の学園に参加してとても自分の為になったと思います。

初めて参加して、富士ミルクランドは、もともと富士開拓農業組合が建てた建物で、赤字が続いていることを知りました。それでも、チーズやバターヨーグルトなどその場で取れたものを活かしたものを商品するなどして、黒字へと向かっていきました。これは、本当に大変なことだと思います。どうしたら知ってもらえるか。どうしたらまた買ってもらえるか。そういった細かいところまで考え、努力しなければなりません。こういった知識や経験を聞かせてもらったことで、今後どのように林業と向き合っていけばいいのか、今後自分は、学習してきたことを活かしていけばいいのか、について考えさせられました。

今回はあいにくの雨で、周りの景色を見ることが出来ず。ふれあいランドにも行くことが出来ませんでした。なので、またミルクランドに足を運んできれいな風景と牛たちを見に行きたいです。僕たちに貴重なお話をしてもらいありがとうございました。

担当：天竜高校 青嶋 海斗、鈴木 崇元

視察先② 株式会社朝霧高原フルーツ村

株式会社朝霧高原フルーツ村 代表取締役社長 片山 洋一

所在地 富士宮市上井出 3690

事業内容 夏秋イチゴ生産・販売

日本を代表する酪農地帯であるが、近年、酪農家経営が悪化し過疎化が進み耕作放棄地が増加している。そこで、朝霧高原のミルクランド(株)と提携し、イチゴ栽培を始め、果樹園農家を増やし、地域経済を活性化させることを趣旨として平成22年7月に立ち上げた。



品種：「すずあかね」四季成性品種で夏秋期にも開花、結実する。

定植：3月上旬～

収穫：6月下旬～翌年1月中旬

天野様より

栽培経験がない状態で、お金を借り、技術指導をうけながらこれまでやってきた。油を大量に使い冬場に生産するイチゴが当たり前だが、フルーツ村のイチゴはイチゴが生産されない夏場をこの高原の気候を利用し生産し販売している。栽培するだけでなく販売戦略も考えなければこれからは生き残ること

はできない。



天野様より栽培方法を聞く生徒

担当：遠江総合高校

講演会 富士市産業支援センター f-Biz 小出宗昭氏

「農業イノベーション ～問題解決のための新たなアイデア～」

【講師紹介】

法政大学経営学部卒業後、(株)静岡銀行に入行した。出向した創業支援施設「SOHO しずおか」で起業家の創出と地域産業活性化に向けた支援活動が高く評価され、「Japan Venture Award



2005」経済産業大臣表彰を受賞した。2008年静岡銀行を退職し独立、(株)イドムを創業した。2007年には内閣官房「地域活性化伝道師」に、2008年8月から富士市産業支援センターf-Bizの運営を受託し、センター長に就任し、現在に至る。これまでに1,300研以上の新規ビジネス立ち上げを支援した実績があり、そのノウハウをベースに運営しているf-Bizは、国の産業支援拠点「よろず支援拠点」のモデルとなり、全国各地の地方自治団体が〇〇-Bizという名称で中小企業・産業支援を

展開している。

【講演内容】

大変革を遂げている農業分野で成功するためには「ターゲットに決定」、「分かりやすいロゴの作製」、「プロジェクトの立ち上げ」が重要である。これについて、具体例を挙げながら話されていた。

【生徒の感想】

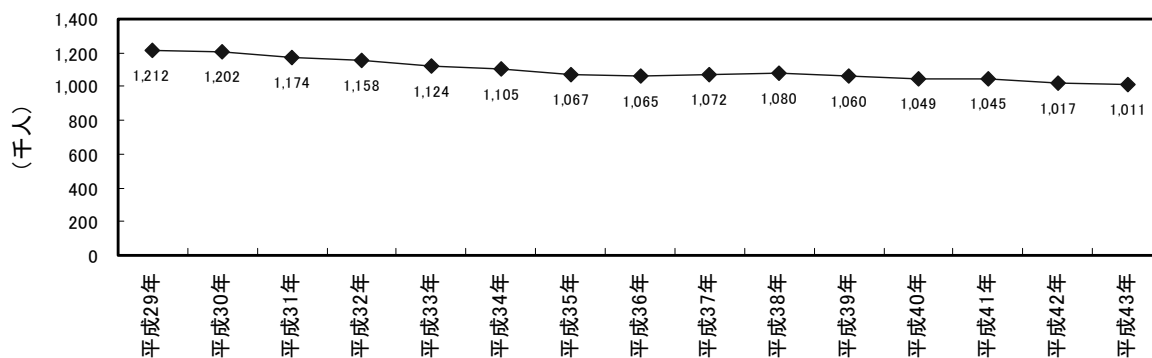
- ・商品がたくさん売するには、ターゲットを絞り、消費者の需要に合った物を供給することが大切だと分かった。(3年・男子)
- ・小出さんに手腕と仕事力に圧倒された。「ブランド化」とよく耳にしても具体的にどのようにしてブランドになるのか知らなかった。今回の講演では、成功例ごとに何をし、どこで有名になったのかを分かりやすく話してくださったため参考になった。配布された新聞記事にも小出さんの熱意ある言葉が詰まっており、相談する人も熱くなる理由が分かった。進路や将来へ不安を持つ私にとって小出さんの話は身に染みるものであった。また講演会に参加したいと思った。(3年・女子)
- ・「自分の趣味がセールスポイントになる」という言葉が印象に残った。(2年・女子)
- ・全ての層に売ろうとするのではなく、しっかりとターゲットを絞り売っていくことが大切だと学ぶことができた。(2年・女)
- ・みんなに売り出すのではなく特定の人へターゲットを絞って売り出すことで、対象の人数が減ってもターゲットの求めるものや興味を持つものを出すだけでたくさん売れることが分かった。また、しっかりとブランド化することが大切だと分かった。(2年・女子)



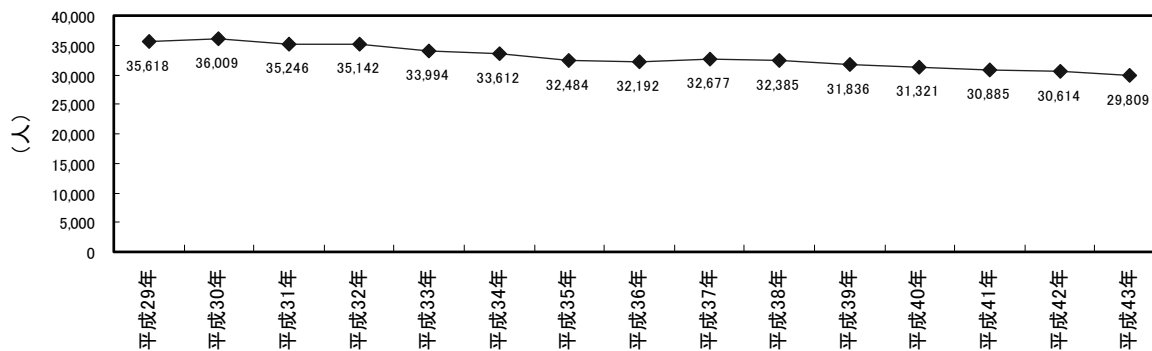
18歳人口の推移

年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
平成29年 年齢	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
全国(千人)	1,212	1,202	1,174	1,158	1,124	1,105	1,067	1,065
静岡県(人)	35,618	36,009	35,246	35,142	33,994	33,612	32,484	32,192

年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年	平成43年	減少率 (42/29)
平成29年 年齢	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	
全国(千人)	1,072	1,080	1,060	1,049	1,045	1,017	1,011	-16.6%
静岡県(人)	32,677	32,385	31,836	31,321	30,885	30,614	29,809	-16.3%



18歳人口の推移(全国)
(出典:総務省統計局「人口推計」)
※平成30年以降はデータより推計



18歳人口の推移(静岡県)
(出典:総務省統計局「人口推計」)
※平成30年以降はデータより推計